

令和八年度 第二学期始業式 式辞

おはようございます。

七月二十八日に発生した熊本地震、八月十三日夕方から十四日未明にかけての千葉県内での豪雨災害、八月二七日から二八にかけての石川県・富山県の大雨被害、そして、八月三十日には福井県嶺北地方を中心とした大雨と洪水の被害、その他、沖縄県と奄美地方は台風十三号や十八号の影響を受けられ、多くの方が亡くなられるなど、被害に遭われています。熊本県には、京都府から何名かの方（行政職・教育職）が支援チームとして、災害復旧等に当たられています。被害に遭われた方々にお見舞い申し上げるとともに、復旧に向けて尽力されておられる方々への敬意を表します。本日（九月一日）は防災の日。この地域には、夏休み中災害は起こっていないかったのですが、いつ起こるか分からない災害に対し、日頃から備えておく必要があります。

また、世界に目を向けると、中国とネパールの国境付近では、（八月二六日）大規模土石流が発生、これは氷河（湖）の決壊によるものではないかと報道されていますが、熊本県の地震以外は、地球温暖化による気候変動が原因ではないかと、現時点報じられています。（地球温暖化で海面水温が上昇し、海から大気への熱や水蒸気の供給を増加させ、降水へ影響を与えると考えられています。）

八月二四日、ヨーロッパ連合（EU）の気象情報機関「コペルニクス気候変動サービス」は、八月二二日に世界の平均海面水温が二一・一〇℃となり記録を取り始めた一九七九年以降最も高くなったと発表されているように、海の環境変化がますます深刻な課題となり、海洋生態系や水産業への影響が懸念されています。

海洋高校で学ぶ皆さんは、こうした問題を「ニュースとして聞くだけ・知るだけ」の立場ではありません。将来、漁業、水産業、海洋科学、さまざまな海事産業など、海と深く関わる専門家として社会を支える人材となります。専門的な学びを深めながら、「環境の面も含めて海を守り、海とともに生きる人材」へと成長してほしいと思います。

本日、こうして海洋生が、大きな事故もなく、元気に同じ屋根の下に集うことができて、大変うれしく思っております。

猛暑が続いた暑い夏でしたが、皆さんは、どんな夏休みを過ごしたでしょうか？

この夏も、海洋高生は大活躍をしました。

あとの伝達表彰にもありますが、複数の部活動では、インターハイで優勝など入賞しましたし、その他、多くの人が府大会などの大会に出場し活躍しました。大会に出場しなくとも、日々暑い中、部活動などに一生懸命取り組んだ人もたくさんいました。また、「海外探Q留学」の京都府・日本代表として、海外経験をした人もいました。

さて、本日は二点述べます。

一点目 うれしい話題です。七月の最終日と八月の初め、中学生・保護者を対象とした学校説明会が実施されました。そこで、保護者からのアンケートの中に、「生徒の皆さんのあいさつが気持ちよく、礼儀正しいのが印象的でした。わが子を通わせることの不安より期待が大きな素晴らしい学校だと思いました。」と述べられていました。

それだけ皆さんの印象が良く、中学生や保護者に好印象を与えているものと確信できます。日頃からの皆さんの礼儀正しい態度に感謝します。

改めてここで、皆さんがしている「あいさつ」の意義について整理してみます。

一 良好な人間関係の第一歩

コミュニケーションが生まれる。自然な会話につながりやすい。

二 自分の心を前向きにする。

明るい声であいさつをすると、気持ちも前向きになります。これは「ポジティブ・イードバックループ」と呼ばれる心理的な効果で、良い行動が自分の心にも良い影響を与えるのです。

三 相手の返事や表情から、相手の状態を知るきっかけにもなります。

四 良好な、場の環境づくり

例えば商品を扱う店舗では、万引き防止（心理的な抑止）、その他の場面でも犯罪防止につながるのではということも言われています。

三年生は、卒業後の進路決定に向けて、面識のない人と接する機会も増えますが、是非、あいさつをしっかりと、よろしく願います。

ちなみに、良いあいさつは「大きな声」だけではありません。あいさつというと、「大きな声で元気よく」と言われることがあります。もちろん、聞こえる声であいさつすることは大切です。しかし、あいさつは、声の大きさでよいか悪いかが決まるわけではありません。その場に応じたトーンで行う。大切なのは、『相手に届くこと』であります。

二点目 今年の六月に受賞式が行われた「第三十回 植村直己冒険賞」を受賞された方についてです。

この方は、「素潜り・手鉈（もり）一本で、前人未到の百匹超イソマグロ捕獲」を行った小坂薫平（こさかくんぺい）さんで、日本人が挑んだ百三十一件の冒険の中から選ばれました。

小坂さんは、本校の海洋技術コースで学習されているスクーバ潜水の技術を用いず、素潜り（フリーダイビング）と、人間の魚獲りとしては最も古典的な「手鉈（もり）一本」という手段で、あえて危険で不合理な方法を選び、水中で、自分よりも遥かに強い力を持つ相手（巨大魚）との間で勝負に挑むことで、冒険の純粋性を高められたことが評価されました。

小坂さんは、東京海洋大学在学中に素潜りと手鉈（もり）漁に目覚め、以降年間二五〇日を海で過ごし、海の厳しい環境で命懸けの挑戦を続けておられます。

なんと、その小坂さんは、泳ぎが苦手であったという事実です。その逆境から、驚異的な自己鍛錬を経て、潜水能力（息こらえ（息止め）六分四五秒、潜水深度六八メートル）を極限まで高め、世界記録を保持するまでに至っておられます。強い意志力、独創的なチャレンジ精神は、見習うべきものであると感じ、ここで紹介させてもらいました。

本日から始まる二期は、さまざまな行事やチャレンジ（挑戦）のチャンス（機会）が多い日程となっています。文化祭・体育祭という学校祭は十一月の予定ですが、三年生には就職試験が始まり、その後、進学試験の時期に続きます。二年生は研修旅行、一年生は学科・コースの決定、一・二年生ともに部活動では、三年生が引退した後の、中心的メンバーとして力を伸ばす時期、資格にも多く挑戦できる時期、その他国内航海実習や、対外的な行事も多くあります。皆さんのチャレンジ精神を期待しています。

二期の終業式は、十二月十八日（金）を予定しています。季節も変わり、雪も降る時期になります。一年度で最も長い二期が、皆さんにとって実り多い学期となりますよう、それぞれでよろしく願います。私からは以上です。

令和八年九月一日